

切り抜いた記事でまわしよみ新聞を作る2年生



平成中学校（薩摩川内市）

批判的思考力育つ

実践校2年目。記事を読んで考えを書く「新聞レポート」や「若い目」への投稿などに全学年で取り組む。朝の1分間スピーチの題材探しに、新聞コーナーを訪れる生徒も増えた。

2月1日は2年生42人が「まわしよみ新聞」に挑戦した。各人が南日本新聞など5紙から気になる記事を選び発表。各グループで大きな紙に記事を貼り、個々の考えを書き独自の新聞を作った。

伊内綾音さんは不織布マスクに関する記事を選んで「身近なことだけでなく日本や世界のことに関心を持つきっかけになる。もっと新聞を読むようにしたい」と話した。

NIE担当の宮内弘毅教諭(46)は「批判的思考力や、相手を尊重しつつ自分の考えを述べる力が育ってきた」と手応えを語る。時事問題への関心も高まり、面接対策にも活用しているという。

(田畑沙織)

か
ご
し
ま

N
I
E
実
践
校

新聞記事を読みながら食糧問題について考える児童



青葉小学校（霧島市）

記事から解決法模索

月1回ペースで朝の15分間を使う「NIEタイム」に全学年で取り組む。1月の活動では5年2組が、社会の授業で学んだ食糧問題について、フライドポテト品薄問題を取り上げた「南風録」を活用し理解を深めた。

新型コロナウイルスの影響で物流が滞る国際情勢など背景を読み解き、自分なりの解決方法を模索。「地産地消を進める」「自分たちでも野菜を育てる」などの結論を導き出した。西溜もさんは「新聞に書いてある内容をヒントに答えを探るのが面白い」と語る。

実践校3年目で、道徳や学級活動でも議論の題材として記事を使い、夏休みの宿題では新聞作りに取り組んだ。NIE担当の佐々木耕喜教諭(59)は「高学年は論理的に物事を考える力が付いてきた。地方紙の活用は地域への理解を深める効果がある」と評価した。

(上柿元大輔)